

## 姫路別所高校グランドデザインの解説

群青 25 号では、本校の教育活動を視覚化したグランドデザインを見てもらった。本校は、「生涯を通じて、自らの未来を自ら切り拓き、粘り強く自己実現に挑戦し続けることができる社会人の育成」を目指して、高校生の中に、「凡事徹底」できる社会人の基礎を身につけてほしいと考えている。

その上で、次のような学校文化の醸成に取り組んでいる。

- ①制服を爽やかに着こなす文化
- ②5分前に集合完了する文化
- ③履物を揃える文化
- ④爽やかな挨拶と丁寧な言葉遣いができる文化
- ⑤自らすすんでボランティアに取り組む文化

学校文化は、一朝一夕に醸成できるものではない。これまでの生徒の皆さんと関係者の努力により、進化し、定着しつつある。例えば、集会に際し、爽やかに制服を着こなし、生徒会の指示で5分前に集合が完了するようになった。挨拶が習慣化されつつある。トイレの履物が揃いつつある。

そして、「目指す生徒像」として、

- ①できることは最後までやり通す生徒
- ②できないことにも果敢に挑戦し続ける生徒
- ③困っている人に手を差し伸べられる生徒
- ④自分が困った時に周囲に声をあげられる生徒
- ⑤相手の眼を見て自分から挨拶ができる生徒
- ⑥相手も自分もモノもたいせつにできる生徒

を掲げ、その育成に努めている。もちろん自らの進路を切り拓く選択肢を増やし、正しい判断ができる知恵を育む学力を伸ばす生徒の皆さんの努力を我々が全力で支えることは言うまでもない。

## 部活動での活躍が励みになる

4月19日体育館で部活動の激励会を開催した。その際、剣道部の3年生北條愛己さんを三楽錬成大会の優秀選手として表彰伝達した。また、5月3日に神戸総合運動公園ユニバー記念競技場で行われる兵庫県郡市対抗陸上競技大会の姫路市代表選手として、2年生の本間涼司さんが110mハードルで選出されることになった。顧問の先生によると、本校から選出されるのは近年になく、快挙であるということだ。

まだ部活動に加入していない生徒の皆さん、部活動で得られるものは、小さくない。心揺さぶられる経験と結果を求めて必死になる経験が人を成長させる。この高校時代にしか経験できない部活動に参加し、人間の幅を広げてみよう。思い切りアオハルできるのは高校時代しかない。

## 挨拶のあ・い・さ・つ

2・3年生には昨年既にお伝えしているが、挨拶の「あ・い・さ・つ」がある。

**「あ：明るく                      い：いつも                      さ：先に                      つ：続ける」**

というものだ。相手の眼を見て、マスクの下でも口角を上げて、目元に笑顔をたたえ、相手のことを思いやって大きな声で挨拶をする。相手よりも先に、継続して挨拶をする習慣を身につけてほしい。

挨拶日本一の定義は、「自分から挨拶をしようと努力している」生徒の割合が100%としている。

昨年7月87.7%が、3月には95.3%となっている。目指せ100%！！

**We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校を目指して** 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩